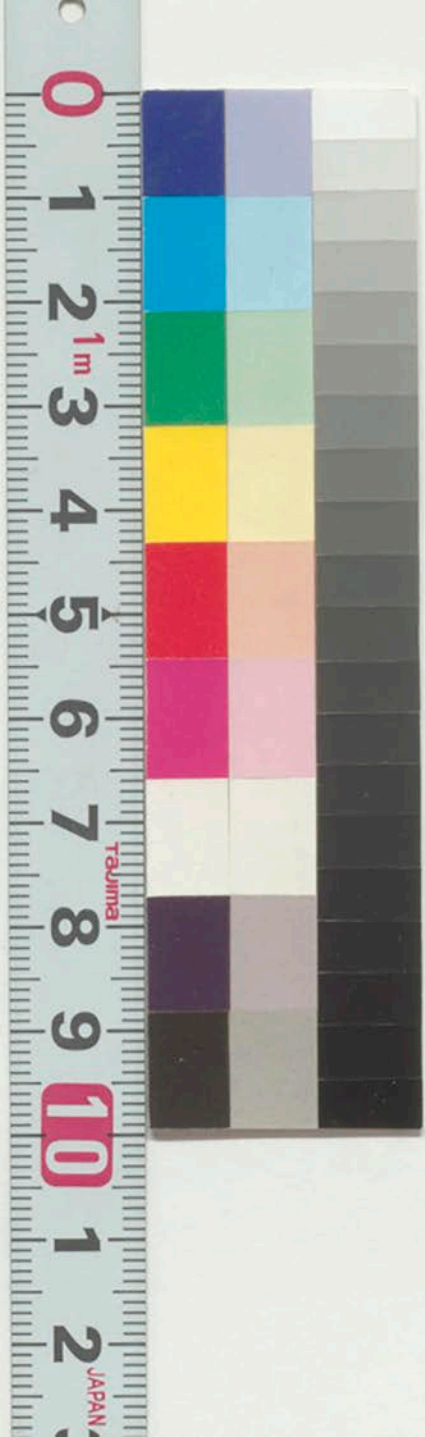


狂歌船玉着

一首百歌狂





一首百歌狂

百感

狂歌船百首

寶船

四方赤良

長きものよも此眼のめざも〜〜数の寶を積んで入船

全

塵外樓清澄

うたふ寐れいづ〜〜にもほめて見守星も〜ふみあふら船とて

全

樂聖庵光丸

いづ艘も枕まつあをるるの船打〜〜へて夢のつき橋をせん

全

琴松舎綾重

見も富士の夢も破れぬち〜〜〜〜切あきを賣る寶船

全

森羅亭萬象

七福は神も〜〜むたの〜船貪ふゆ〜〜ぬほど積む

35432



全

一富士二鷹

ふたのふ船天竺ののの唐日本への衆合を夢のやうな舟

全

桃 三千丸

りづより漕出しちん長きよの浪の舟を見えぬ船頭

全

福、迎房鶴成

かど大和のつよ寄せて衆合もむり月みるたの船

船中迎春

南亭葉々廣

うら船のな先よ松と竹のうらちちどく立ちてあふ玉乃春

船中松飾

平秩東作

波の上も子の日け野邊にいら舟のうらや共よ小松の繩

船上霞

唐衣橘洲

春日さきうらう船の碇網えいやくま引く霞の舟

花見船

六帖園雅雄

三味線の棹を藝者にとせり花の雪見は隅田の川舟

白魚船

左候 某

漕ぐ船もつごの島は浪の花とらう魚のよとるかど火

鶺鴒舟

庭訓舎綾人

ぬむ玉のやまは鶺鴒舟の湖月抄夜ごとよに見る冊火の巻

全

琴原 笛成

かき火の松浦乃川も十のつるのそ舟を並べ鶺鴒づのひ乃舟

全

柳 業 枝

鶺鴒もふ身は罪ももら川や夜舟こま出夢の世渡り

全

無智節 貞

武士の八十ち川の流がと鶺鴒もあくとく舟のかち原

全

芦野丸家

伊勢武者の鎧ふとねど鶏うい舟箒火赤く流し宇治川

舟中聞郭公 本街堂 亭

のう合の耳ととろへく時鳥鳴く音もかゝる淀の川舟

全

九如館 鈍永

まごこ舟ふい命の洗濯とかげこふたへのうつけのり

全

宿屋 飯盛

橋のとう子とくやくと三ッ股そびやうと射そとるや舟の風

全

水莖園 外成

舟あまごもすみみの名物ころころよのう出を品川る岸

全

麓 近 住

三味線の猫おぢてや舟またく花火の崩ちくと消えをり

全

青山堂 枇杷磨

隅田川名酒くまんと夕まごみりん田をのけて漕ぎ出の舟

全

六十軒 一長

大船もくつへらななき雲見えそあ肌もある風の涼一き

全

獨樂堂 高盛

淀よりもまゝ両国のぼく舟ひく三味線のわがらぶる行く

全

瀧翰園 長文

こころも暑き氣そつのが葉の箱崎や百さうもあふ夕まごみ舟

そみ舟風荒のうらまじ

五世

市川 白狼

此風も三味線いれくそみ舟汲たいての事のあいなあ

七夕の舟

白鯉館 卯雲

ものへたる夕まげさ引のへくうーや別水の妻おくる舟

早舟

玉倉歌種

かゝり鮮まつもりの初鯉伊豆のもふも通る早舟の

繪馬屋額輔

の久くくへのめくくんとく聲かきそ淀の川瀬の鵜舟引舟

川舟

赤松日出成

舟つても岸邊は棹のさし沙も今朝は凍りてめく田川

屋根舟

山手白人

千早ぶる神田川より漕出くみむ天津児屋根舟のも

全

寶市亭升成

棧橋乃あぶる冬雪の屋根舟いつの吉原へは竹勝手舟り

全

紫一元

花ごころを敷き原の屋根舟いつとく雲をうつる月影

千石船

石川玉阿

積んで来る千石船もとほ目よハ米つぶほどに見つた海原

帆掛船

河原鬼貫

帆うけ船わくと形はねおし出せばさ川こくちを走りぬる哉

全

早々返上

沖を見ればつらまけとて海面をぶくらりたる帆うけ船哉

荷足舟

莊喋權中雄

柳葉の風もちんじ涼い秋子にくるのふがれ川ふね

猪牙舟

談洲權馬

三めづりの土手から舟をよほ子鳥乗るも傳授の猪牙の三子

全

子子孫彦

苦うけて水のおもろを取梶をこぎゆく猪牙のあまを波

全

卧龍園梅磨

帆がらもつのがむ声と見えよらり品川沖ふじよづの船

寄恋恋

石田未得

思ひよりあがれと沈む我恋を小舟よりまきし荷物よりるを

全

島久清

君とこれ情もうつ帆もけつ波もうき名もあつ船の上

全

山道高彦

ともしも心ゆせけり今宵あふそら江口舟よむい哉

全

屋職堅丸

ふいひのに船頭おほき舟あふでどこのとて登るこの恋のやほ

全

梢雪風

恋の海ふのき中よも船玉と風のかまぬ為りいのふ

全

雲多樓鼻曲

はがらつを是にわりのほのけ船りつの間うや風がわたた

全

急名紋染丸

舟人をあふちちを思ひ川むうへそら舟の昔もこの船

兼合舟

琴通舎英賀

晴くの日和を四季の兼合を傘で屋根あく五月雨の舟

全

桂樹園家風

琴系の十三里ひくよげ川を仇もあふる兼あいの舟

全

八百品教

近江路にみづのうらわい園々の寐りのがらもあふ流淀の舟

全

光明館秀丸

のり合に他生の縁よその舟もやまら一河をわたる舟のあふ

全

四國猿人

京や奈良へ参詣人も乃々の舟大佛やとどろくふもおも

沙千狩の舟

酒 爛 主

龜の尾乃灸もまくつて沙千狩尻をまくつて沖のあり舟

寄舟恋

千種庵霜餅

千代ごおりの命も君もささし舟ちぎら合ふと夜の首尾の松影

全

五車亭龜山

せのき舟多き人目をいといふなり佛の名さへ仇みたがせ

全

和國持也

逢ひ見んと思ふらるるけ通ひ舟あもを君が方へそとて

三股眺望

半井ト養

山もつら又舟もあそ川もあらかぞいひとつとつといはさる景

隅田川眺望

古瀬勝雄

せまご川漕ぎの舟の名を問へば梅の丸といふべしなり

伏見よて

由縁齋貞柳

大坂よりのがもばらるる魚荷舟いふふいあふい鯛體をうり

播磨洋まで

甚久法師

旅衣もろゆの洋をこへ船乃のつづる程をそくそりぬ

海 路

橘樹園早苗

常陸帯ららるる帆の船をいふかこていふ鹿島路の旅

全

紀 美屋人

よとの海や波間こぎさし舟の雲のきりよ入らるる思ふ

全

漆草 莉安

呉羽島あゆしき海の道をたが船のをさうと打任せぬ

全

淡路守宗増

雲霧もこれ物なれどさみ渡る時分と見てどおーいしん船

全

花實庵貞富

とはなも身がしえままる田國船あまの鳴門のきびのこころさよ

金澤よて

曆春明

朝あきまてての志を帆の千船千鳥さういや波の小つみ

大島沖よて

耳元鐘近

大島の沖づつとあつむむむ霞を船の帆のころり

春の舟

櫻曙園茂躬

白魚つらつらゆるる煙あつて川瀬よのぼるあまの猪牙舟

夏の舟

伴連成

まや六ツのつと佃のどふ舟うけり簾はあけりほの頃

秋の舟

松花堂俊經

氏も川月あつとふと漕ぐ舟のつと見ゆる程のまや

冬の舟

尋亭杉村

北時雨もあつとむりち海のあつと出を谷川乃舟

船人

荷造早文

くき池あつ世の中を舟人かてて苦みで渡るいふみ

寄船祝

恋川春町

千歳凡とのきぬる船も碇網のあまきまるとし萬代やせん

全

朱樂菅江

此宿の千歳を船も積あけてかぢいとも教いと山

(終)

あふまの之を船泊寺わ高の修に
但し海に白くしるは眠り
して舟を漕ぐことと云ふ

不ふ乙丑霜夕

解野の金七人

大正十五年一月元旦

君代の舟を漕ぐは熱海の舟に
千千里の須つ富年の春

発行者 我平他宗第十一番札
航宝山船泊見

印刷所 東京市日本橋通二二七
三岡村文房具店
印刷部

電話大寺一七三三
振替口座東京四八〇五

跡見学園女子大学短期大学部図書館



a 0010103547 a

35432

一、新編 川原水天流 巻一
二、新編 川原水天流 巻二
三、新編 川原水天流 巻三
四、新編 川原水天流 巻四
五、新編 川原水天流 巻五
六、新編 川原水天流 巻六
七、新編 川原水天流 巻七
八、新編 川原水天流 巻八
九、新編 川原水天流 巻九
十、新編 川原水天流 巻十

新編 川原水天流 巻一
新編 川原水天流 巻二
新編 川原水天流 巻三
新編 川原水天流 巻四
新編 川原水天流 巻五
新編 川原水天流 巻六
新編 川原水天流 巻七
新編 川原水天流 巻八
新編 川原水天流 巻九
新編 川原水天流 巻十

新編 川原水天流 巻一
新編 川原水天流 巻二
新編 川原水天流 巻三
新編 川原水天流 巻四
新編 川原水天流 巻五
新編 川原水天流 巻六
新編 川原水天流 巻七
新編 川原水天流 巻八
新編 川原水天流 巻九
新編 川原水天流 巻十

